

都市部と農山村部における生活環境要因の整備評価の比較分析

名城大学 学生員 ○古井 良典

名城大学 正会員 松本 幸正

1. はじめに

都市部と農山村部における生活環境の整備水準が異なることから、住民の生活環境に対する意識に差異が生じていると考えられる。そのため、都市部と農山村部での住民意識の特性を的確に把握したうえで、その地域に適した生活環境の整備が必要である。

本研究では、愛知県旧豊田市、旧岡崎市、旧設楽町、旧額田町、旧下山村、旧作手村（以降この2町2村を農山村部とする）において住民意識調査を行い、その結果から、住民ニーズの充足している生活環境要因と住民が改善を必要としている生活環境要因を明らかにする。そして、10年前からの変化に関する評価との関連から、住民の意識を明らかにし、都市化の進んだ旧豊田市や旧岡崎市、農山村部で比較を行う。

2. 住民意識調査結果の分析

本研究では平成16年12月15日（水）、16日（木）に旧豊田市、旧岡崎市と農山村部において行ったアンケート調査の結果を用いて分析を行う。

まず、住民意識調査における生活環境の総合評価を「暮らしやすさ」として外的基準に、表1に示す20の生活環境要因に対する評価を説明変数とし、数量化理論 類により分析を行った。その結果から、影響度、ニーズ充足度、改善必要度¹⁾を算出した。ここで、影響度とは、暮らしやすさの評価に与える影響の大きさを表す指標のことである。影響度が高いということは、その生活環境要因の評価と、暮らしやすさに対する評価に強い関連があることを表している。満足度が高いということは、多くの住民が生活環境に対して満足しているということを表している。ニーズ充足度、改善必要度は暮らしやすさの評価に与える影響と、住民の満足を同時に定量化した指標である。ニーズ充足度の高い項目は、暮らしやすさの評価に与える影響が大きく、かつ住民の満

表1 生活環境要因

	評価項目	略記
1	歩道の整備状況のよさ	歩道
2	道路の整備状況のよさ	道路
3	公園・広場の整備状況のよさ	公園
4	福祉施設・公民館の整備状況のよさ	福祉
5	下水処理の適切さ	下水
6	交通事故対策の適切さ	事故
7	緑・自然の豊かさ	自然
8	空気のきれいさ	空気
9	川・池のきれいさ	川池
10	騒音の少なさ	騒音
11	治安や風紀のよさ	治安
12	病院・診療所への行きやすさ	病院
13	総合病院への行きやすさ	医療
14	日用品の買い物施設への行きやすさ	買物
15	電車を利用時の出かけやすさ	電車
16	バスを利用時の出かけやすさ	バス
17	となり近所の人々との人間関係のよさ	近所
18	自治体の地震対策の適切さ	地震
19	自治体の水害対策の適切さ	水害
20	消防車・救急車の到着の早さ	救急

足も高いということを示す。改善必要度が高い項目は、暮らしやすさの評価に与える影響は大きいものの、住民の満足は低いということを表している。

10年前からの生活環境の変化に対する評価を定量化するため、改善度を定義する。改善度は、良くなったと評価している割合から悪くなったと評価している割合を引いた値である。改善度が高いということは多くの住民が生活環境に対して10年前に比べて良くなっていると評価していることを表している。

3. 整備分類図と地域間の比較

各地域において、生活環境要因の住民の評価、10年前から良くなっているかどうかを把握するため、整備分類図を作成する。整備分類図は、ニーズ充足度、改善必要度を縦軸にとり、改善度を横軸にとる。ここで改善必要度は、ニーズ充足状態から改善必要状態の変化を捉えるために負の値とした。次に、生活環境要因の整備分類を行うため、整備分類図を次の4つの領域に分割し定義する。

キーワード 生活環境要因、影響度、ニーズ充足度、改善必要度、改善度

連絡先 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL 052-832-1151

ニーズ充足状態で，10 年前から良くなっている
 ニーズ充足状態で，10 年前から悪くなっている
 改善必要状態で，10 年前から良くなっている
 改善必要状態で，10 年前から悪くなっている

の領域は住民の生活環境に対する満足という評価が暮らしやすい評価につながっており，さらに 10 年前から良くなっている生活環境要因が属している．の領域は住民の生活環境に対する満足という評価が暮らしやすい評価につながっているものの，10 年前から悪くなっている生活環境要因が属している．の領域は住民の不満足という評価が暮らしにくい評価につながっており，さらに 10 年前から悪くなっている生活環境要因が属している．

都市部と農山村部における生活環境要因の整備評価の違いについて比較を行う．旧豊田市と旧岡崎市の都市部では図 1，図 2 全体に生活環境要因が散らばっていることから都市部では 10 年前から良くなっている生活環境要因と悪くなっている生活環境要因がほぼ同程度であることが分かる．しかし，農山村部ではほとんどの生活環境要因が 10 年前より良くなっていることから，住民のニーズに沿った整備が行われたことがわかる．

また，生活環境要因の「治安」について着目すると，都市部は，改善が必要な状態で 10 年前から悪くなっているのに対して，農山村部ではニーズ充足状態であり，10 年前より良くなっていることが分かる．このことから，農山村部に比べて都市部の「治安」は早急な対策が望まれていることがわかる．

4. おわりに

本研究では，旧豊田市，旧岡崎市，農山村部における住民意識調査の結果を用いて分析を行った．そして，生活環境要因が整備分類図のどの領域に属するかによって，その生活環境要因の住民の整備評価を明らかにした．その結果から，同じ生活環境要因であっても都市部と農山村部において整備評価に違いがあることが分かった．今後は，優先度の定式化を行い優先順位の決定が必要である．

なお，本研究の遂行にあたり，日比科学技術研究助成金を受けた．ここに記して謝意を表します．

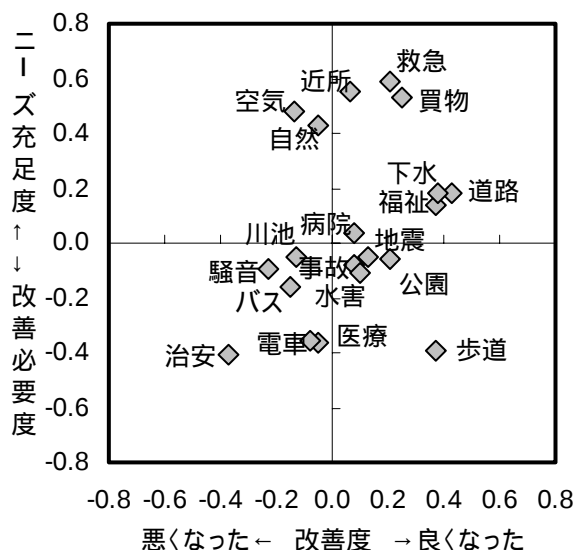


図 1 旧豊田市整備優先分類図

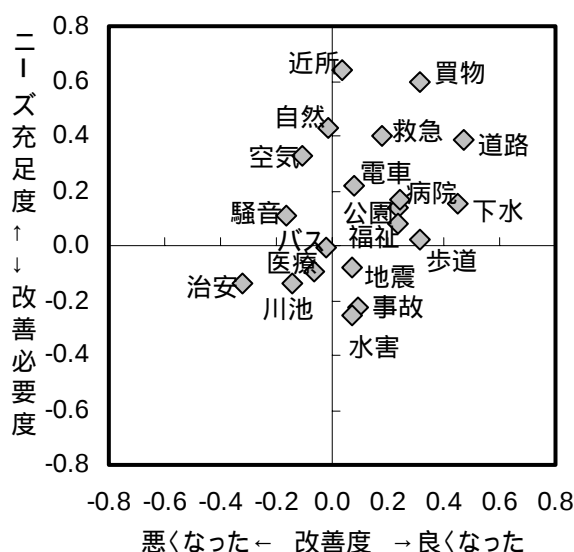


図 2 旧岡崎市整備優先分類図

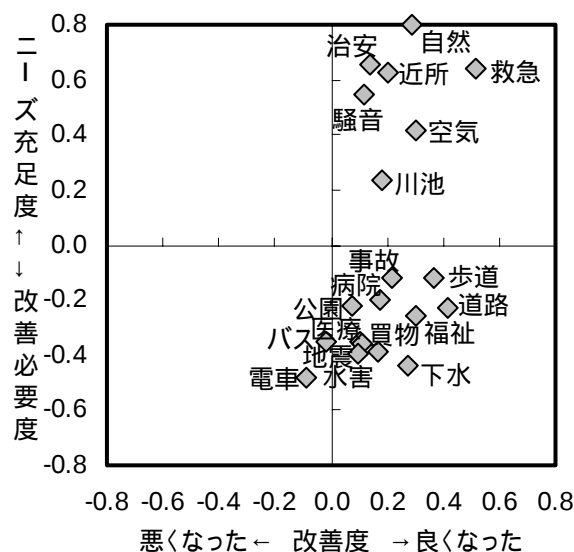


図 3 農山村部整備優先分類図

<参考文献>

- 1) 松本幸正，伊東裕晃，松井寛：豊田市における市民意識調査を用いた生活環境に対する住民意識と改善要因の定量的分析，第 38 回日本都市計画学会学術研究論文集，pp.73-78，2003．